

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4279
22年8月30日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

規制緩和、民営化で暗躍し 黒い利権に変えた政商たち

にアメリカで開かれるワールドカップに出ることとなった投手七人の中に入ったわけだから、すごい。普通、このクラスはプロ入りするが、秋のドラフトではどうなるのだろうか。海星ではいま阪神にいる江越大賀外野手以来となるが、どうか。

二〇〇七年十月の郵政民営化から十五年。

小泉純一郎
首相(当時)

の行政改革・規制緩和、民営化だったが、その後の分割された郵政三事業はどうなっただろうか。



民間企業の評価は株価にあるとされるが、二〇一五年十一月四日の株式上場での初値に比べ、現在の日本郵政の株価は七九六円下げ、九六四円で五四%だ。

ゆうちょ銀行は六四九円下

げ、二〇二二円で六一%だ。かんぽ生命株は二二七〇円下げて二六〇〇円の六二%だ。いずれも半値の評価となっている。(八月二日現在)。また企業実態も、それぞれの資産・資金も大きく減らしている。

もとはといえば、世界一の金融機関とされた簡保生命や郵便貯金の膨大な郵政の資金を規制緩和、民営化で、国と国民の財産から、一部金融資本のものとす。『安楽死』を狙ったわけだから、株価が下がるのはありうるわけだ。しかし、この失われた資金はどこへ行ったのだろうか。

「政商」という言葉がある。広辞苑には「政商とは政府や政治家と特殊な関係を持ち、利益を得ている商人」とある。言葉を変えれば、政商とは時代変革のとき、政治家とつながり、暴利をむさぼる経済人である。国民無視の許しがた人物である。

日本の近代史でいうと、政商といわれる人は過去、三人いた。最初が明治の岩崎弥太郎の例であり、昭和の小佐野賢治であり、次が平成の政商、オ

リックスの宮内義彦である。(ほかにもいるが代表としてあげる)。

岩崎は三菱の創始者であるが、幕末、明治維新の混乱期に、佐賀の乱、台湾出兵、西南の役の戦争で利益を上げ、長崎製鉄所(三菱造船の前身)などの官業を格安で払い下げさせて、巨万の富を築いた。それ以降、三菱は軍需産業として成長を続ける。



岩崎はそのトップにいた。

次の小佐野は、昭和の時代の黒幕

である。戦前の中国との戦争や戦後のベトナム戦争、朝鮮戦争で利益を上げる。また東北新幹線の予定地を買い占め、転売をして、暴利を得たこと有名だ。

一九七二年、田中角栄は首相選挙で六十億円を使い、勝利した。田中はその選挙で一票あたり二百万円を使ったとされたが、世間やマスコミは角栄を「今太閤」と持ち上げる。この選挙資金を小佐野が支えたといわれる。その後、この二人はロッキード事件で失脚する。

小佐野は国会で喚問された時「記憶にございません」を連発し、流行り言葉となった例の人だ。

そして最後が、平成の政商といわれるオリックスの宮内義彦である。プロ野球のオリックスのオーナーだ。



に、例えば、かんぽの宿などの払い下げなどで暴利を得る。当時あの膨大な土地や建物がたった一万円で買い占められた。国の利権を政府の審議会のトップが自由に手にした時代が、現代の規制緩和や民営化の底流にあった。

宮内は当時「規制緩和」というのは、戦後最大のビジネスチャンスだ。これは決して大げさな話ではない。今までの護送船団方式で、行儀よくしなさいといわれてきたのが、自由になるわけだから、やる気のある者にとっては、これほどのチャンスはない」と述べている。(週刊東洋経済1996.11.2日号)。

経済改革開放でのビックバンで規制改革が進み、バブルも崩壊する大混乱期に、行政改革、規制緩和、国営事業の民営化(郵政の民営化など)が急速に進んだ一九九〇年、二〇〇〇年代に、宮内は政府の行革・規制改革の審議会や委員会などで十年以上もトップに君臨し、小泉とともに、これを進めた。

現在も「改革」という言葉を掲げる維新などの政党がいくつかあるが、政治家が「改革」というとき、国民は眉に唾をつけて聞くことが必要である。だまされたいのために。

郵政の株価	日本郵政	ゆうちょ	かんぽ
2015.11.4の売値	1,760円	1,671円	3,430円
2015年最高値	1,997円	1,800円	3,890円
2022.8.22の現在	964円	1,022円	2,160円

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。

ゆえに、均等待遇、なごみ差別! ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ!